

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュたかばた		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日 ～ 2025年 12月 27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日 ～ 2026年 1月 17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動遊びを取り入れ、発達に繋げている。	全体の活動として、ラジオ体操以外に音楽に合わせて楽しく体を動かせるエクササイズ等を行い、普段身体を動かすのが苦手な子どもも楽しい雰囲気の中、身体を動かす事ができる。	年齢層、発達の段階など差があるので、それぞれに合ったゴール地点を決め成功体験を増やしていく。
2	経験5年以上の職員や得意分野のある職員が在籍しているので、遊びの幅も広がる。	本部のリモート研修に積極的に参加し、スキルアップに努めている。	職員間での細かい情報共有も続けていくと共にミーティングの時間を十分に確保しチームワークよく施設運営ができるようにする。
3	土曜日と祝日はイベントを開催し、普段とは違った体験が出来るようにしている。 クッキングやおでかけイベント等、子どもたちが主体となって楽しめる行事を計画している。	子どもたちの意見を取り入れ、子ども達に寄り添ったイベントを行っている。	興味のある事から繋げて経験や成功体験を増やし、自信や興味のある事を広げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが限られており、静と動の切り替えが難しい。 ・落ち着けるスペースが確保できない。 ・運動遊びの近くでの工作にヒヤットする場面がある。	もともとスペースが狭いので工夫して使うしかない。	パーティションなどで個別のスペースを確保する等したい。
2	父母の会など保護者を交えての交流ができていない。	コロナ禍以降、父母会を設けていない。平日にしか開催できない。 保護者側も仕事があるので開催が難しい。	少人数でも良いので開催してみる。
3	非常時の対応や安全確保について、保護者の方に情報がしっかりと伝わっていなかった。	災害時、緊急時対応等マニュアルは整備されているが、保護者の方へしっかりと情報が伝わっていないことが自己評価アンケートより分かった。	保護者の方へ個別で伝えていくとともに、SNS等を活用して情報を発信していく。